

農村地域における社会集団の環境保全活動への参加性向測定の試み

Attempt to measure of Participation Potential of Social Group in Rural Community to the Environmental Conservation Activities

○重岡 徹*, 山本徳司*, 栗田英治*

Tetsushi SHIGEOKA, Tokuji YAMAMOTO, Hideharu KURITA,

1. 研究目的

平成 19 年度より、農地・水・環境保全向上対策が推進され、また、新たな農村環境保全対策のあり方に向けて、農村景観計画手法の策定が検討され始めている。一方で、農村地域は過疎化・高齢化の進展とあいまって、平成の大合併による地域社会の構造的な再編が急激に進み、農村景観保全を担う主体形成の混乱が随所でたち表れてきている。かかる中において、住民自治の自発的な住民参加による景観保全に取り組む地域が見られる一方で、そうではない地域では行政・住民自治ともに停滞する保全活動を前に手をこまねている状態にある。

環境保全活動は、空間要素についての科学的な解明とともに、保全活動の担い手となる地域の社会的要素についての保全活動ポテンシャル（参加性向）を把握し、空間要素と社会的要素を総合化した活動推進手法を開発する必要がある。そうした手法を活用して行政による住民や社会集団の保全活動への動員を促進する活動展開戦略を構築していかなければならないであろう。そのためには、空間要素と社会集団の関係を社会的観点から類型化し、集団の環境保全活動への参加ポテンシャルを測定する方法の開発が求められる。瘦躯邸法の開発により、これまで住民参加による環境保全活動を住民の自発的発生に依存していた構造から、行政による住民や社会集団の動員を促進する活動展開戦略への展望が可能となるであろう。

2. 研究方法

社会集団の環境保全活動への参加性向は、農村環境の空間的特性や資源の賦存と配置を相対化しながら、それらを取り巻く多様な社会集団（基礎的集団、ボランティア型集団、ネットワーク型集団等）の環境保全活動に対する社会的距離（参加の程度）や各社会集団間の空間構成要素を介した関係距離の測定によって析出されると考える。

参加性向の測定は 3 段階の分析が必要となる。第 1 段階は、集団構成員と外部者（行政等）ないし対抗集団を対象に、集団構造、活動実績、集団機能に関するアンケート調査および面接調査を行って、各集団の社会的活力を主観（構成員）＝客観（外部者・対抗集団）の相互評価の差異等から読み解く。第 2 段階は、地域資源と各集団との社会的距離を、集団の資源についての認知性、接触性、利害性、代替性等の観点から析出する。第 3 段階は、集団の社会的活力とそれぞれの地域資源に対する社会的距離とを関係づけて、各社会集団の環境保全活動への参加性向を測定する。

本報告は第一段階の調査について、社会集団の社会的活力を読み解く分析方法の試案を提示する。

平成 20 年 5 月から平成 22 年 2 月にかけて、地域自治活動（社会教育行政による公民館活動）及び資源管理活動（農地・水・環境保全向上対策）の活発な鹿児島県 A 町 A 地区と K 町 K 地区を対象に、地区内の各種社会集団のそれぞれのリーダーに紙面調査票を用いた面接調査を実施した。本調査により両地区の社会集団（各地区 12 集団）の集団構造、活動実績、集団機能に関する情報を収集した。得られた情報をもとに社会集団の社会的活力を析出するための調査方法を考案した。その内容を報告する。

3. 研究成果

(1) 調査票の考案

- ・調査票案は集団のリーダーおよび行政等公共機関の関係部署を対象とするアンケート調査票および面接調査票を案出した。
- ・アンケート調査は、マッキーバーおよび鈴木等の集団類型を参考にして 4 つの様式（コミュニティ型

*（独）農研機構 農村工学研究所

[キーワード] 農村振興、社会的活力、集団構造

集団用、官製型集団用、グループ活動型集団用、アソシエーション型集団用) の調査票により調査することで、多様な集団から有用な情報を得ることが可能となると考えた。

・面接調査では、自治会長、行政担当者、土地改良区長等の地域リーダーによる地域集団評価チェックリストと各集団のリーダーによる他集団評価チェックリストを用意することで、集団活力を析出する上での有効な客観情報を得ることが可能と考えた。

(2) 分析モデルの考案

・分析モデルとして「集団構造／集団機能×集団の実績（活動実績と行政による評価）」を考案した。
 ・集団構造は<規模・範囲・予算・助成率・会合回数・履歴・結合契機・組織体制・活動内容>から、
 集団機能は<政治性・統合性・企業性・行動性・拡張性・拠点性・娯楽性・教育性・福祉性>からそれぞれ測定する。

・集団実績のうち活動実績は<1年間の会合回数・構成員数の増減・むら仕事への参加程度・事業活動への参加程度・役員の改選>から、行政による評価は<地域を代表する・事業の受け皿になりうる・行政連絡の対象となる・地域の意見を集約できる・地域資源を管理できる・地域農業振興に貢献する・地域活性化に貢献する・防火防犯に貢献する・高齢者等の介護に貢献する・都市農村交流の取り組みに貢献する>から測定される。

・それぞれの測定値をモデルに照らし合わせることで集団の社会的活力が析出されると考える。

集団構造の測定項目

基礎構造	規模	集団規模／集落規模
	構成員の範囲	超集落／集落／班組
	予算	構成員一人あたり予算
	助成	構成員一人あたり助成
	会合回数	回数／年間
結合性	履歴	設立からの経過年数
	結合契機①	血縁／地縁／社会縁／縁無し
	結合契機②	継承的結合 あり／無し
組織性	利益共有	あり／無し
	価値共有	あり／無し
	組織体制①	構成員単位 個人／世帯／両方
	組織体制②	役員割合 役員数／構成員数
	組織体制③	役員選出法 選挙／推薦／輪番
活動性	規約の有る／無し	
	組織体制④	加入条件の有る／無し
	組織体制⑤	下部機関の有る／無し
	活動内容①	活動の範囲 超集落／集落域／班組域
	活動内容②	活動の単位 集団単位／小グループ単位
活動内容③	活動の性質	ボランティア／利益獲得／個人の趣味
	活動の成果(伝統維持)	
	活動の成果(結合維持)	
活動内容④	活動の成果(活力創造)	

集団機能の測定項目

政治性	世代間の調整
	利害関係者の調整
	組・班・集落間の調整
統合性	新規住民と既存住民間の調整
	行政(事業・施策)との調整
	行政以外の公共機関との調整
企業性	仲間(連帯)意識を醸成する
	慣習・慣行(地域の伝統)を維持する
	倫理や規範(公共道徳)を示す
行動性	住民意識(地域への帰属意識)を維持する
	新しいビジネスを創造する
	新たな所得(稼ぎ)の機会を提供する
拡張性	お金や物品の貸し借りの場となっている
	特産品などを開発する
	地域づくりのアイデアを考案する
拠点性	イベントなどを企画する
	道路の清掃作業に参加する
	水路の清掃作業に参加する
娯楽性	鎮守の清掃活動に参加する
	公園の清掃活動に参加する
	祭りなどの祭礼神事に参加する
教育性	運動会やスポーツ大会等のイベントに参加する
	農地・水・環境保全向上対策の活動に参加する
	外部社会に向けて情報を発信する
福祉性	外部者との繋がりをつくる
	外部からの情報を入手する
	外部に仲間(応援団)をつくる
折衝力	結いの核になる
	運動会やスポーツ大会等のイベントの核になる
	祭りなどの祭礼神事の核になる
管理力	冠婚葬祭の核になる
	道路の清掃作業の核になる
	水路の清掃作業の核になる
事業力	鎮守の清掃活動の核になる
	公園の清掃活動の核になる
	農地・水・環境保全向上対策の活動の核になる
福祉力	悩みや相談事を吐き出す場になっている
	心のよりどころ(生き甲斐づくり)になっている
	余暇の過ごし方を提供する
政治性	仲間、友人関係づくりの場になっている
	子供達の社会教育に貢献する
	子供達の学習活動に貢献する
統合性	地域外の子供達の環境教育を担う
	教養や知識を提供する
	公共道徳を養成する
企業性	民生的な活動を担える
	高齢者等の介護活動を担える
	独居老人世帯の世話を担える
行動性	母(父)子家庭の世話を担える
	乳幼児・児童の保育を担える
	救急医療の補助を担える

活動実績の測定項目

集団内 活力	1年間の会合回数
	対前年の構成員数の増減
	最近5カ年での役員改選の有無
	最近5カ年での組織体制の変更の有無
むらへの 貢献	最近5カ年での規約改正の有無
	道路の清掃作業への参加
	水路の清掃作業への参加
	鎮守の清掃活動への参加
	公園の清掃活動への参加
事業への 貢献	祭り等の祭礼神事への参加
	運動会やスポーツ大会への参加
	農地・水・環境保全向上対策の活動への参加
	農業農村整備事業への参加
	その他の公共事業への参加

行政評価の測定項目

統合力	地域を代表する
	地域の意見を集約できる
折衝力	事業(施策)の受け皿に成りうる
	行政連絡の対象となる
管理力	地域の資源を管理できる
	地域の防火・防犯に貢献する
事業力	地域農業の振興に貢献する
	地域の活性化に貢献する
	都市・農村交流の取り組みに貢献する
福祉力	高齢者等の介護に貢献する